

波 (1952)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 108分
初公開日 1952/04/03

【解説】

新聞に連載された山本有三の同名小説を、中村登が脚色・監督した作品。大木直太郎が潤色した。生方敏夫による映像と、佐分利信の演技が高い評価を得た。

見並行介の家に、置屋から逃げ出してきた芸者きぬ子がやってきた。かつての教え子がいじらしくなった行介は彼女と結婚。しかしきぬ子は学生の瀬沼涼太郎と家を飛び出してしまう。行介が連れ戻したきぬ子は妊娠し、駿という男の子を産むが、出産後の熱が原因で息を引き取った。駿が自分の本当の子供かどうか確信が持てない行介は、里親として紹介された野々宮昂子に駿を預ける。やがて行介は昂子に想いを寄せるようになるのだが、彼女の妹の襲子に迫られ関係を持ってしまった。転任が決まり駿を迎えに行った行介は、昂子に愛を告白されるが…。

【クレジット】

監督 中村登
製作 高村潔
原作 山本有三
脚本 中村登
潤色 大木直太郎
撮影 生方敏夫
音楽 吉沢博
奥村一
出演 佐分利信
桂木洋子
淡島千景
津島恵子
設楽幸嗣
石浜朗
笠智衆
坂本武